

2004(平成 16)年度 国立看護大学校研修部活動報告

研修部長 西尾 和子

平成 16 年度に研修部が行なった研修は、表 1 のとおりである。内容は政策医療的な視点に加え、平成 13 年度の研修ニーズ調査(国立看護大学校研究紀要 1(1)に掲載)を参考に計画した。今年度は認定看護師教育課程を 3 コースに増設し、総勢 49 名の研修生を迎え入れた。

1. WOC 看護研修—褥瘡ケア—

これまで、褥瘡対策が診療報酬における減算対象であったことに加え、平成 16 年 4 月の改定で褥瘡患者管理加算が認められたことから、昨年度に引き続き、褥瘡ケアに焦点を絞って研修を計画した。50 名の定員に対し全国 92 施設から 104 名の応募があり、選考の結果、53 名(うち教官 2 名)の参加を得た。講師には教育機関の教員や臨床現場で活躍する WOC 認定看護師を迎え、充実した講義・演習を組むことができ、研修生に行なった質問紙調査においても高い評価を得た。

2. 看護研究研修—基礎コース—

昨年度は 1 年間の実践コースを実施したが、研修生が勤務を行ないながら研究を継続し大学校教官の指導を受けることが難しく、双方に負担をかける結果となった。このため今年度は、5 日間の基礎コースのみの開講とした。

基礎コースには、30 名の定員に対し全国 106 施設から 111 名の応募があったため、演習担当教官数を増員し 46 名の参加を得た。文献検索、研究方法、統計処理演習など、短期間に濃縮された講

表 1 平成 16 年度に実施した研修

研修名	研修目的	期間
WOC 看護研修—褥瘡ケア—	褥瘡対策チームの看護師に必要な知識・技術を習得する。	平成 16 年 6 月 21 日～6 月 25 日 (5 日間)
看護研究研修—基礎コース—	施設内において看護研究を遂行できる人材を育成する。	平成 16 年 9 月 13 日～9 月 17 日 (5 日間)
「感染管理コース」 (認定看護師教育課程)	感染管理ができる専門的な知識や高度な技術を持つ感染管理認定看護師を育成する。	平成 16 年 10 月 7 日～ 平成 17 年 3 月 25 日 (6 か月間)
「がん性疼痛看護コース」 (認定看護師教育課程)	がん性疼痛を持つ患者に対して、質の高い緩和ケアを実践できる認定看護師を育成する。	平成 16 年 10 月 7 日～ 平成 17 年 3 月 25 日 (6 か月間)
「がん化学療法看護コース」 (認定看護師教育課程)	がん化学療法を受ける患者・家族に対して、専門性の高い看護を実践できる認定看護師を育成する。	平成 16 年 10 月 7 日～ 平成 17 年 3 月 25 日 (6 か月間)
「感染管理コース」 フォローアップ研修	感染管理に関する最新の知識を確認し、専門的な活動の充実を図る。	平成 16 年 12 月 14 日 (1 日間)
「がん性疼痛看護コース」 フォローアップ研修	疼痛緩和に関する最新の知識を確認し、専門的な活動の充実を図る。	平成 17 年 3 月 2 日 (1 日間)

義・演習を実施した。研修生による最後のまとめでは、「文献検索の重要性とその読み取り方がわかった」「質的研究の具体的な進め方がわかった」という意見の一方で、「もう少しゆっくりやって欲しかった」「セカンドレベル的な研修を設けて欲しい」といった要望があり、今後に向けて検討していきたい。

3. 「感染管理コース」(認定看護師教育課程)

講義・演習・実習をあわせ 630 時間の教育課程である。各ナショナルセンター・国立病院機構の多大な協力を得て研修生の募集と選考(書類選考・面接)を行ない、今年度は第 4 回生として 20 名を迎えた。研修生は、疫学・統計学、微生物学、感染症学といった看護師としては慣れ親しむ機会が少なかった分野の講義に苦闘しながらも、院内感染対策チームのリーダー、あるいはリンクナースとしての資質を養うべく、日々、努力を重ねている。

4. 「がん性疼痛看護コース」(認定看護師教育課程)

講義・演習・実習をあわせ 630 時間の教育課程である。各ナショナルセンター・国立病院機構の多大な協力を得て募集と選考(書類選考・面接)を行ない、今年度は第 2 回生として 12 名を迎えた。また平成 16 年 9 月 16 日から翌年 3 月までの予定で、専任教員として国立がんセンター中央病院よりがん性疼痛看護認定看護師 1 名を派遣していただいた。研修生は、がん性疼痛に苦しむ患者に良いケアを提供するために、専門的かつ高度ながん性疼痛緩和に関する知識・技術の習得に励んでいる。

5. 「がん化学療法看護コース」(認定看護師教育課程)

講義・演習・実習をあわせ 645 時間の教育課程である。平成 16 年 5 月 21 日、日本看護協会認定部に「教育機関認定申請書」を提出し、6 月 2 日付けて「がん化学療法看護」分野の認定を受けた。各ナショナルセンター・国立病院機構の多大な協力を得て短期間で募集と選考(書類選考・面接)を行ない、第 1 回生 17 名を迎えることができた。また平成 16 年 5 月 24 日から翌年 3 月までの予定で、専任教員として国立がんセンター中央病院よりがん専門看護師 1 名を派遣していただいた。研修生は、がん化学療法に関する専門的かつ高度な知識・技術を習得すべく、日々、努力を重ねている。

6. 「感染管理コース」フォローアップ研修

「感染管理コース」修了生 64 名を対象に募集し、現職にある 60 名全員の参加を得た。研究発表・活動報告会では 6 名が研究発表を、7 名が活動報告を行ない、修了生が研修の成果を十分に発揮し現場で活躍している状況が伺えた。また同時に、着実に全国的なネットワークとして修了生の輪が広がりつつあることが実感できた。今後も、修了生たちが感染管理に関する最新の情報・知識・技術を習得することを目的にフォローアップ研修を開催し、修了生を支援していく予定である。

7. 「がん性疼痛看護コース」フォローアップ研修

「がん性疼痛看護コース」修了生 18 名を対象に、現在、募集を行っており、平成 17 年 3 月 2 日に実施予定である。

8. 看護研究研修—1 年コース—

平成 15 年 7 月から大学校教官の指導のもとに引き続き研究を継続し、諸事情により研究を中断した 1 名を除き 9 名が、8 月 3 日に行なわれた「看護研究研修発表会」に出席し、各々の研究成果を発表した。研修生は、忙しい勤務の合間をぬって 1 つの研究をまとめあげたことで大きな自信を得ていた。また、大学校教官から貴重な意見や示唆をいただき、学びを更に深める機会となった。なお、このコースは、今年度は実施していない。